

# 他校との遠隔合同授業（複式学級を含む）の推進

石狩市立厚田学園 学級数7（校長 岡山 拓）

## 実践の概要

本校は、「対話的に学び、自己の考えを広げ深める子の育成～ファシリテーション力を向上させる授業を通して～」を重点目標とし、教育活動を推進している。特に、子どもたちの資質・能力の育成に向けてICTを活用して他校との遠隔合同授業等を実施し、「対話」を中心とした協働的な学びの実現を目指している。

## 1 実践の目的

本校は、義務教育学校の強みである9年間の学びの系統性を重視した授業実践を進めており、小規模、少人数の強みを生かした個別最適な学びの充実と、基礎・基本の確実な習得に向けた指導方法の工夫・改善を図っている。今年度は、子どもたちの資質・能力を育成するため、対話とICTの有効活用を重視した「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改革を通してコミュニケーション能力の向上を図る。

## 2 実践内容

### (1) 実施計画

江別市立北光小学校（第6学年児童）と外国語科の遠隔合同授業

【内容】外国語科「自己紹介」の交流

江別市立北光小学校（第1学年児童）と特別活動の遠隔合同授業

【内容】特別活動「自己紹介」と「学校紹介」の発表・交流

江別市立北光小学校（第2学年児童）と国語科の遠隔合同授業

【内容】国語科「馬のおもちの作り方」の作品発表・交流

ALTの母親（カナダ在住）と本校第6学年児童による外国語科の遠隔授業

【内容】外国語科「日本の食べ物・スポーツ」の発表・交流

### (2) 取組の具体

石狩管内及び北海道内の小規模校や海外に暮らす人々と、Web会議システムを活用し、授業交流や合同授業、英語による文化交流などを実施している。児童生徒が、より多くの人々との対話を通して、多様な価値に触れたり、実際に英語を用いてコミュニケーションを図る体験を通して、外国の生活・文化などに慣れ親しみながら学びを深めたりすることにより、自己の考えを広げ深める子の育成を図っている。



【①外国語科の自己紹介（第6学年）】



【自己紹介（第1学年）】



【国語科の授業（第2学年）】



【ALTの母親と文化交流】

### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ・外国語科においては、ICTを活用し、リアルタイムに意見交流を行うことにより、即座に評価やフィードバックを受けることができた。
- ・国語科の授業においては、児童が作成した作品を送り合い、実物を見ながらICTを活用して交流したことにより、活発な意見交流ができた。
- ・「対話」を進めるため、発達の段階に応じた「話し合いのスキル」を身に付ける必要がある。
- ・対話の質が「意見交換」や「知識の共有」の段階に留まっていることから、対話の力を系統的に高め、「価値の共有」を図ることができるよう取組を進める必要がある。

### (4) 改善後の取組

対面とオンラインのハイブリッドの在り方を考え、より効果的なICTの活用方法について実践を積み重ねている。

## 3 実践のポイント

小規模校に在籍する児童が多様な人々と対話することで、考えを広げたり深めたりすることができるよう、ICTを活用し、市外の学校と遠隔合同授業を実施したり、海外の人と交流したりしたこと

# ICTを活用した資質・能力を育む遠隔学習の取組

音更町立下土幌小学校 学級数6 (校長 菅野 みゆき)

## 実践の概要

本校は、全校児童数35名の小規模複式学級を有する学校である。小規模複式校の特徴として、児童が多様な他者と関わりながら学びを深める場面に課題が見られることから、その解決策として町内の小規模校や同じ中学校区の小学校とWEB会議システムを活用した遠隔学習の充実の取組を推進している。

### 1 実践の目的

町内の小規模複式校4校が小規模複式校ならではの多様な他者と関わりながら学習する機会が少ないという課題を抱えていることから、遠隔地の他校とWEB会議システムを活用した交流学習を設定することにより、児童が多様な他者と関わりながら学びを深めるとともに児童のコミュニケーション能力の育成を目指すことを目的とする。また、中学校区の小学校と連携し、遠隔学習の機会を設定することにより、中学校への進学に向けた円滑な接続を図る。

### 2 実践内容

#### (1) 実施計画

多様な人々とのつながりを実現し、教科等の学びを深める遠隔学習  
相互交流を充実させる合同開催の行事に向けた遠隔交流学習

#### (2) 取組の具体

多様な人々とのつながりを実現し、教科等の学びを深める遠隔学習  
複式校同士の遠隔学習を実施し、児童が相互の学校の特色や取組などを交流したり、継続的に合同で授業を行ったりするなど、相手意識を働かせた言語活動の充実を図ったことにより、児童は、多様な他者の意見に触れたり、自らの考えを深めたりすることができた。

相互交流を充実させる合同開催の行事に向けた遠隔交流学習

今年度から、中学校区での小学校同士を連携校とし、宿泊学習、修学旅行を合同で行うようにした。その際、事前の話し合い活動をWEB会議システムで行うことにより、行事当日には、児童が相互にコミュニケーションを深めるとともに、中学校への進学に向けて円滑な接続を図る交流になった。

#### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

少人数学級で発表や表現する学習を行う際の課題として、多様な他者の考えや意見に触れることが少ないため、相手意識や目的意識をもった言語活動に制約があったが、遠隔学習で他校とつなぐことにより、多様な他者の意見に触れることができ、コミュニケーション力の向上が見られた。

これらの活動を通して、今後必要になると考えられる資質・能力について、教科横断的な視点から意図的・計画的な学習指導の充実を図るとともに、合同授業を実施する場合、複数校での時間割の調整に伴い、各教科等の年間を見通した取組を計画する必要がある。

#### (4) 改善後の取組

授業前の打合せについては、各学校の日課表の違いがあり、調整を要する場面が多かったことから、オンラインで実施校担当教師間の話し合いを行うなど、教師自らが日常的にICTを活用するとともに、その有効性を実感することができた。

児童からは、「中学校に進学したら同級生になる児童と友達になれることがうれしい」、「いつものメンバーで学習するよりも、リモートで学習したほうが楽しい」などの感想が出された。

### 3 実践のポイント

- ・WEB会議システムを活用した他校との学習機会を設定したことにより、児童が物事をより多面的に捉えるなど、表現する意欲を高め、コミュニケーション能力の向上を図ったこと
- ・他校の教職員の授業や指導方法を参考にするなど、遠隔学習を通して中学校区内における授業改善の方向性を共有したこと



【遠隔学習の様子】

# 複式学級における地域内の学校との遠隔合同授業

弟子屈町立美留和小学校 学級数 5 (校長 佐藤 義行)

## 実践の概要

本校では、令和2年度より「町内へき地複式校」による遠隔授業に取り組んでおり、今年度は、昨年度まで2校であった「町内へき地複式参加校」が3校になったことや、1人1台端末を含むICT機器が充実したことにより、自校におけるオンライン学習はもとより、学校間をつなぐ遠隔合同授業にも取り組んでいる。

### 1 実践の目的

ICT機器を活用して「町内へき地複式校」による遠隔合同授業を実施することにより、多様な他者の考えに触れることを通して、自己の考えを形成する力を育成するとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。

### 2 実践内容

#### (1) 実施計画

年間を通して、学校間で各教科等における他者との交流を位置付けた指導計画を作成する。

ICT機器を用いて円滑に交流できるよう機器等の体制整備を推進する。

自校と他校との児童間や教師間で、遠隔合同授業に向けていつでも連絡を取り合うことができるよう、共通のGoogle Classroomを設定し、必要に応じて情報共有を図る。

#### (2) 取組の具体

各種行事等における交流

- ・「町内へき地複式校」による合同修学旅行の実施に向けて、高学年において、遠隔による事前学習を行った。
- ・社会見学における施設見学等の事前準備において、遠隔による意見交流を行った。

各教科等における交流

国語科における、それぞれの立場から話し合う活動や、図画工作科における共同作品制作に向けた計画立案において、「町内へき地複式校」の児童たちと遠隔による合同の学習を行った。

#### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

各種行事等における交流

日常的に連絡を取り合える環境を整備し、多様な他者の考えに触れることを大切にされた指導を継続したことにより、画面を通して他者を知ろうと積極的に交流したり、質問を繰り返しながら他者から情報を収集したりする児童の姿が見られるなど、他者との関係性が構築された。

各教科等における交流

児童が多様な他者と交流する必要感のある活動を意図的に計画したことにより、交流を主な活動とする言語活動を通して、自己の考えを広げたり深めたりする児童の姿が見られた。

・の交流における児童の姿から、児童の交流への必要感を大切にするとともに、年間を見通して指導計画を工夫するなどして、遠隔合同授業における交流を効果的に促す必要がある。

#### (4) 改善後の取組

児童の必要感に応じて遠隔授業を実施するだけでなく、児童の考えを形成する力やコミュニケーション能力の育成につなげようとする授業者の指導観を共有するため、教務担当や学級担任が中心となり、「遠隔合同授業を含めた単元の指導計画」を作成した。

### 3 実践のポイント

- ・遠隔授業による交流の場を設定するとともに、児童の「交流への必要感」が生まれるよう、Google Classroom等を活用し、日常的な交流や情報共有を図ること
- ・授業者が明確な指導観をもって指導することができるよう、長期的な視野をもって意図的・計画的な指導計画を作成すること



【遠隔合同授業で自己紹介する児童の様子】



【社会見学に向けて事前に意見交流する児童の様子】

次時	学習内容	評価	学習形態
1	・学習全体の見直しを持つ。		各自
2	・教科書の例文から、話し合いの流れをつかみ、リモート会議の見直しを持つ。 ・役割分担を行う。※リモート10分程度		一部リモート
3	・司会の進め方や提案する内容を考える。		各自
4	・議題にそって話し合いを行う。(1回目)		リモート
5	・前時の話し合いの様子を振り返り、2回目の話し合いに向けて、見直しを持つ。		各自
6	・議題にそって話し合いを行う。(2回目)		リモート
7	・前時の話し合いを振り返り、新スポーツの取り組み内容を決定する。		集合形式(奥小)
8	・決まったルールにそって、実際に新スポーツを行っている。		

【遠隔合同授業を含めた単元の指導計画】

# 児童の主体的な学びを生み出す遠隔交流学習

別海町立野付小学校 学級数 8 (校長 打川 真由美)

## 実践の概要

野付地区では、地学連携を基盤とした幼小中一貫のふるさとキャリア教育「野付学」を体系化して実施し、地域産業の担い手育成に取り組んでいる。本校では、「野付学」に友好都市の枚方市立東香里小学校（大阪府）との遠隔交流学習を位置付け、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実する探究的な学習を推進した。

## 1 実践の目的

教科横断的な視点で教育課程を見直し、児童の思いに寄り添う柔軟な「野付学」の学習を計画・推進することにより、児童の主体的な学びを生み出すとともに、ICTを効果的に活用する遠隔交流学習を位置付け、他地域に住む児童と地元で魅力を発信し合うことにより、ふるさとの良さを再発見する。

## 2 実践内容

### 実施計画

教科等横断的な視点で「野付学」の指導計画を見直し、第3学年の総合的な学習の時間に、遠隔交流学習の場面を位置付けた。児童の思いに寄り添いながら学習を進めることができるよう、学習の導入場面において、目的、ゴールイメージ、学習方法等の学習プランを学級全体で共有し、学習の見通しをもたせた。

### 取組の具体

児童は、各教科等と総合的な学習の時間で学んできたことから、東香里小学校の児童に伝えたいテーマを「別海町と野付地区のこと」「漁業」「酪農」の3つに整理し、自分が紹介したい内容を決定した。地域資源を活用し、児童の取材したい施設を決定した。児童は必要に応じて取材方法を調べたり、相談し合ったりしながら調べ学習を行い、集めた情報を学級で共有した。児童の中には、1人1台端末を持ち帰り、親子で映像資料を集めたり、調べた資料を整理・分析したりするなど、積極的に家庭学習に取り組む姿が見られた。まとめ・表現する場面では、東香里小学校の児童に伝えたいという思いが、原稿の推敲や発表練習への意欲につながり、児童は助言し合いながら発表の質を高めた。

遠隔交流学習では、児童が、他地域の児童と遠隔でつながるワクワク感や、自分たちが調べた情報を伝える楽しさ、相手のことを知る喜びなどを感じることができた。また、遠隔交流学習を通して、児童は、ふるさとの良さや魅力を再発見し、ふるさとに誇りをもつ姿が見られた。

### 取組後の点検・評価、工夫改善

遠隔交流学習後、成果及び課題を校内だけではなく、東香里小学校とも共有し、来年度も遠隔交流学習を教育課程に位置付け、実施することを確認した。また、調べ学習や体験学習で収集した資料を基に、整理・分析し、まとめ・表現することができた今年度の取組を評価し、教育課程の更なる改善につなげることを両校で確認した。

### 改善後の取組

学校経営のランドデザインに「野付学」を位置付け、「野付学」の質の向上を図ることができるようにする。また、全学年の単元配当一覧表に教科等横断的な視点で「野付学」を関連付け、児童の心が動く体験と各教科等で学んだことがつながるよう教育課程をデザインする。なお、複数の学年で遠隔交流学習を実施することを検討し、学年ごとに探究・交流のテーマ（第3学年「地域の魅力」、第4学年「共生」）を設定した。



【見通しをもたせる学習プラン】



【親子で撮影した映像】



【遠隔交流学習をする児童】

地域の人とのつながり (生活科)	町たんけん 町の人の仕事 (生活科)	昔のくらしを 調べよう (3学期社会)	別海・野付の昔を 調べよう (後期社会・総合)
地域の人との つながりをまとめよう (生活科)		地域の人々の 生活の変化について 調べ、まとめよう (社会・総合)	
のつけの「花・どうぶつ・さかな」 をしんぶんて知らせよう (前期)		野付のよさを 知らせよう (前期総合) 図鑑	野付のよさを 知らせよう (前期総合) リーフレット
のつけのだいすきを アルバムでつたえよう (後期 学習発表)	のつけのだいすきを をつたえよう (後期 学習交流)	野付の自然・海産物な どの資源について調べ 発信する (後期総合) 大阪府枚方市との学習 交流 スライド	野付の自然・海産物・ 施設・歴史などの資源 について調べて発信し よう (後期 学習交流)

【「野付学」を関連付けた一覧表（一部抜粋）】

## 3 実践のポイント

- 教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを行い、児童の思いに寄り添う学習を計画、実践し、児童の主体的な学びを生み出したこと
- 遠隔交流学習を教育課程に位置付け、児童が相手意識をもち探究的な学習に取り組み、ふるさとの良さや魅力を再発見する心を動かす教育の充実を図ったこと